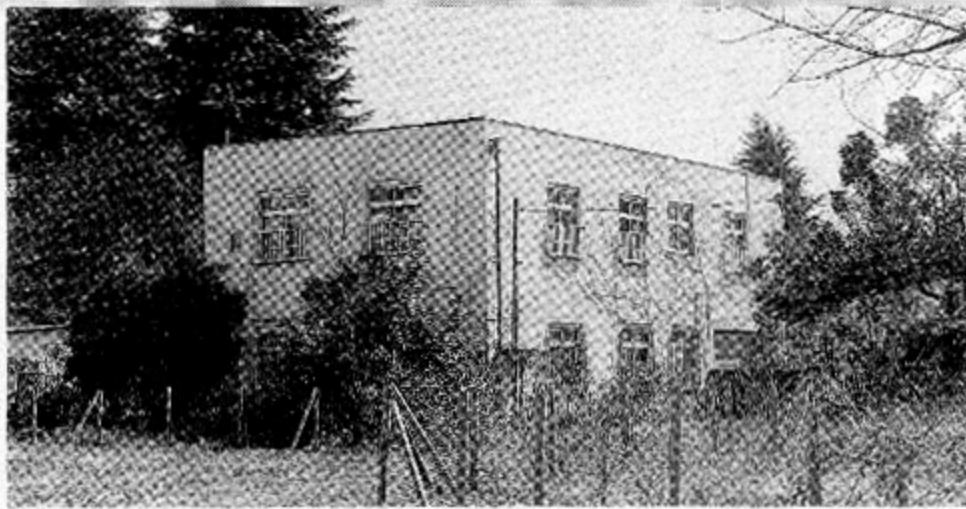


零戦の旧跡 解体決定

零戦を造っていた旧中島飛行機武蔵製作所（武蔵野市）の建物で、唯一現存する旧変電室の解体が正式に決まった。製作所跡にある都立武蔵野中央公園の整備計画を審議していた都公園審議会の答申に「保存」が盛り込まれなかったためだ。「重要な戦争遺跡」として保存を求めてきた市民団体は保存運動を続けるとともに、30日に見学・学習会を開く。

中島飛行機武蔵製作所跡地に残る 武蔵野の旧変電室



解体が決まった中島飛行機武蔵製作所の旧変電室―武蔵野市緑町2丁目

都公園審の答申、「保存」盛り込まず

公園は、戦時中に零戦のエンジンを造った日本有数の軍需工場だった武蔵製作所の跡地にある。現在10・1号で、隣接する都営住宅の建て替えて空いた1・1号を整備して拡張することが決まっている。拡張部分には製作所関連施設の中ではただ一つ残る旧変電室があり、自治会の倉庫として使われている。

都は元々解体の方針だったが、昨年11月に知事の諮問を受けた審議会が、都民の意見も募って整備計画を検討していた。2月にまとめられた答申では、従来の公園と合わせ「潤いのある大規模な緑の空間の創出」を方針とし、拡張部分は散策や休憩ができる樹林ゾーンとする計画。旧変電室の保存は盛り込まれなかった。

市民らでつくる「武蔵野の空襲と戦争遺跡を記録する会」が保存を訴え、2千人分の署名とともに、審議会の意見募集に「保存して資料展示室や防災倉庫に使う」などの案を提出した。だが、武蔵野市が別の場所に歴史資料館開設を計画していることなどを理由に採

用されなかった。ただ、旧変電室の位置も考慮した説明板の設置は市と協議の上で検討する、とした。

都公園緑地部によると、2014年度中には更地になり、15年度中には整備を始める計画という。同会の牛田守彦副代表は「過去を想像する拠点として現物が残る意味は大きいはずだ」と今後も保存を求めて活動する考えだ。

30日の見学会は午後1時に市役所駐輪場（緑町2丁目）に集合。旧変電室を含む市内の戦争遺跡をめぐる。資料代300円（学生は無料）。問い合わせは同会の秋山さん（0422・52・0288）。（千葉雄高）